

3-B

アカマツの巨木(赤松)

マツ科マツ属
Pinus densiflora

3-B-a 枯れたアカマツの巨木

巨木名称	幹周	樹高	所在地
延喜の松 写真 AM-001	11.0m	50m	神奈川県大和市深見 深見神社
延喜の松(二代目) 写真 AM-002	8.0m	40m	〃
飯盛松 写真 AM-003	6.75m	40m	長野県中野市大熊区
大原の赤松 写真 AM-004	6.65m	25m	岩手県大東町
浅利の御座松 写真 AM-005	7.0m (写真から判断してM5 程度か?)	不明	山梨県大月市
横手の駒の松 写真 AM-006	5.0m	11m	山梨県北巨摩郡白洲町横手

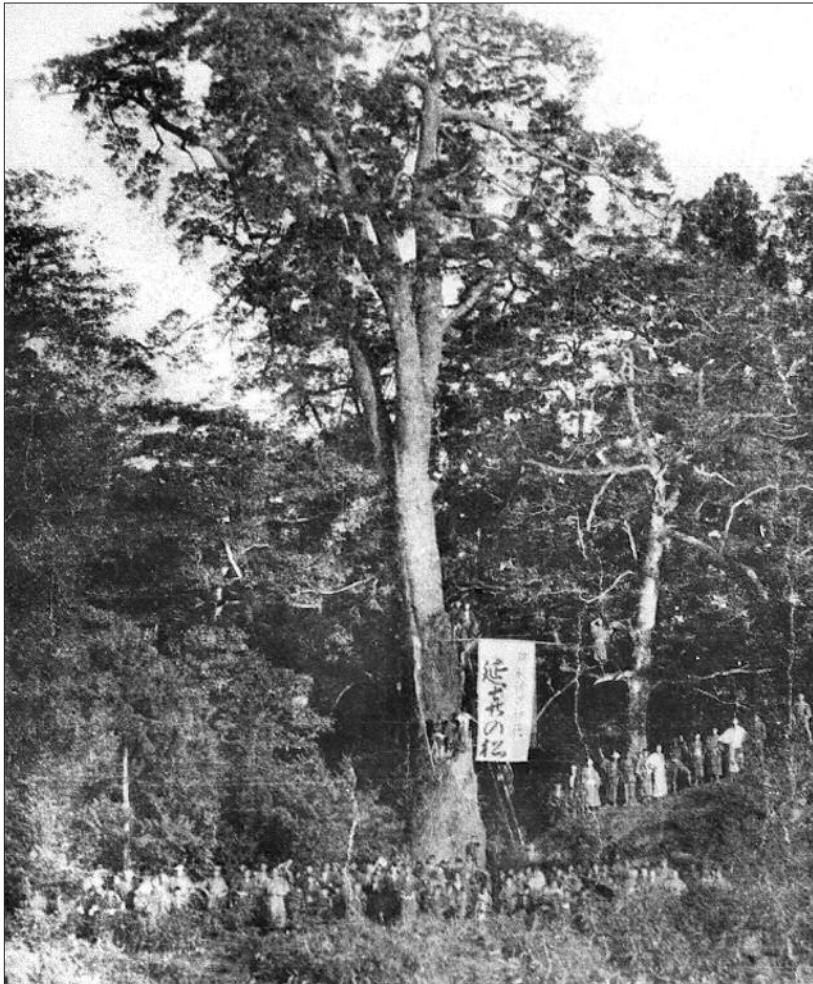


写真 AM-001 ^{えんぎ}延喜の松

境内にある御神木「なんじゃもんじゃの木」の北側にあった。地上8~12mにかけて二股になっていた巨松。一方が折れ、その部分に人が何人も立っている。折れた幹が健全ならば、いかに巨大であったかが想像される。それにしても、これだけ大勢の人が押寄せて、いったい何の式典でもあったのだろうか。不思議な写真である。撮影時期、枯死時期については不明。(写真・大和市教育委員会提供)

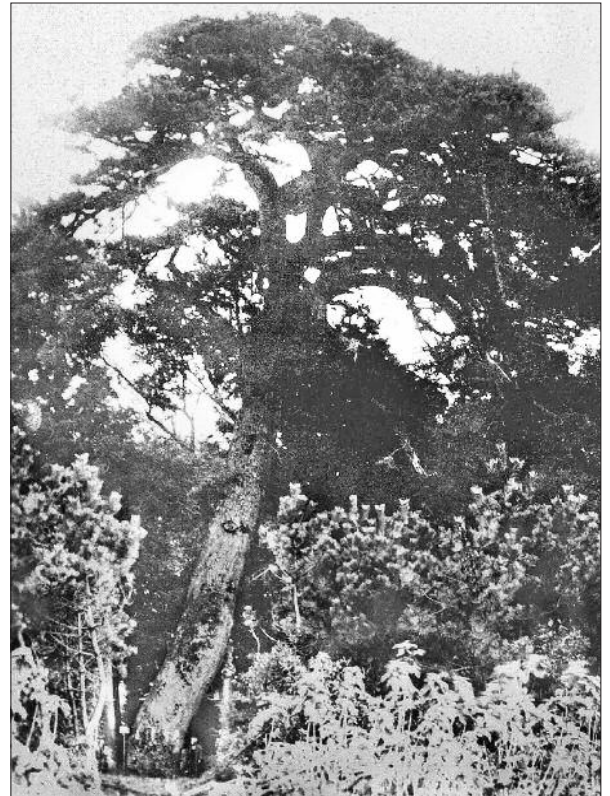


写真 AM-002

^{えんぎ}延喜の松(二代目)

この延喜の松については、ほとんど判っていない。おそらく、同じ深見神社の境内にあって、延喜の松の後継木として植えられたものでないかと推察される。人物と比較すると、幹周は8m、樹高は40m程と推察される。これは単幹樹で、いわゆる一本松。2015年現在、現役のアカマツ日本一は「東法田の大赤松」で幹周M7.10mであり、しかも上部分岐幹。アカマツでは日本史上歴代一位と二位の一本松が深見神社の境内にあった事になる。(写真・大和市教育委員会提供)

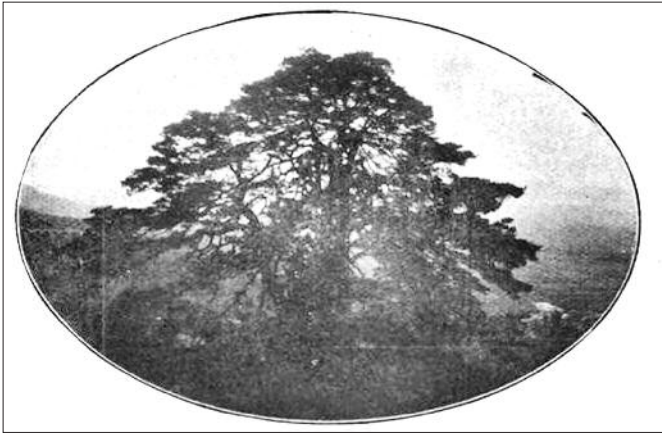


写真 AM-003 ^{いいもりまつ}飯盛松 (写真・大日本老樹名木誌)

大熊区の山の尾根にあった巨大な分岐樹形のアカマツ。写真でわずかに判明するように、根元近くで分岐していたようだ。切株が残っていて(右写真・秦広志)、調査をした秦広志によれば、「宇龍の松」の切株程ではなかったが、写真から判断される雰囲気を感じさせるものであった、という。伐根の断面のサイズは1.7m×2.3mという巨大なもの。



▲写真 AM-004

^{おおはら あかまつ}大原の赤松

高台にある菅原家の入口に立っていたが、1997年に伐採された。(写真・渡辺典博)

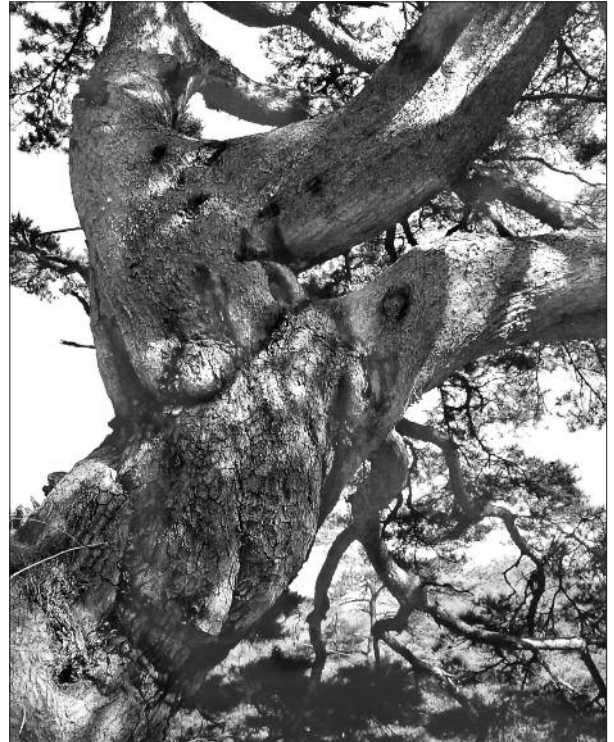


写真 AM-005 ^{あさり ござまつ}浅利の御座松

大月市の北方、浅利川沿いの山峡に立っていたが、1998年に伐採。(写真・渡辺典博)



▲駒の松根元 (写真・Web画像)

写真 AM-006

^{よこて こま}横手の駒の松

地上1mで2分岐、主幹はさらに2分岐。美しい樹形のアカマツであった。2008年伐採。枝張り東西18m、南北20m。(写真・秦泰史)